

石室清倫 いしむら 評論家。明治二十七年四月五日石川縣生まれ（一九〇一）。

昭和二年東京帝國大學文學部英文科卒。在學中新入會に参加し、全日本

本社會科學聯合會の教育部長となる。卒業後日本共產黨入黨、翌五年二

・一五事件（黨員一齊大檢舉）に遭ひ、釋放後日本評論社入社。次ついでに

滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）調査部に入り、十八年の滿鐵事件に檢舉。

二十一年歸國して再入黨、マルクス・レーニン研究所員、コアカハ

タ『編集委員』を経、東京都委員に就く。二十四年佐藤昇等と雑誌『現

代の評論』を創刊し、黨中央の壓力で廢刊、更ニ除名せられ、その後

春日汪次郎等の共產主義労働者黨の結成に参加した。

譯著書、マルクス エンゲルス著『聖家族』(譯、昭和二十八年十一月五日岩波

書店「岩波文庫」)、『中ソ論争論』(ソウの思想へのリアプローチ) (昭

和二十八年六月二十五日青木書店)、『西田信春書簡・追憶』(共編、

昭和四十五年十月二十一日上筆社)等。

